



「家庭教育への10(9+1)の提言」Vol.2

～学びあい、つながりあい、未来に輝くさやまっ子のために～



「家庭は、すべての教育の出発点です」と言われています。子どもが基本的な生活習慣や社会生活のルール、コミュニケーション能力等を身に付けるためには「心のよりどころ」となる「家庭」が大きな役割を果たします。子どもは家族の一員として必要な存在であると感じることで、自己肯定感や有用感が高まり、責任感や自立心も育ちます。こども基本法が施行され、教育委員会も「こどもまんなか社会」の実現に向けて様々な取組みを進めています。「さやまの子ども」が安心して成長することを願って、子どもの育ちの基盤となる家庭教育について、次のことを提言します。

1 「個性を大切に」～他の子と比べず、認め、勇気づけ、自信を～

子ども一人ひとりには個性があります。今できていることやその子自身を認め勇気づける、「いいね」「素敵」などの言葉をかけることで「うれしい!」「またやってみよう!」と自信がつき、たとえ失敗してもその努力を認めてもらえたことで、自尊感情が育まれ、何事にも進んで取り組む意欲が高まります。



2 「あいさつを大切に」～人間関係づくりの基本を～

挨拶(あいさつ)はコミュニケーションの基本です。まずは、家庭内で実践しましょう。生活のリズムを整えることにもなります。「いってきます、いってらっしゃい」「ただいま、おかえり」といった日常生活の挨拶(あいさつ)が、「ありがとう」「ごめんなさい」など心をつなぐ言葉にもつながっていきます。



3 「早寝・早起き・朝ごはん」～規則正しい生活リズムを～

子どもの健やかな成長のためには、規則正しい生活のリズムをつけることが大切です。早寝、早起きをして睡眠時間を確保し、一日のスタートでもある朝ごはんを、しっかり食べることで、やる気や集中力が出てきます。



4 「良いモデルは大人から」～子どものモデルとなる姿を(困ったときには相談を)～

善悪の判断、社会生活のきまり、交通ルール、人を思いやる心などを知ることは、子どもにとって、社会生活の入口となります。守るべき約束やルールは何か、相手のことを思って行動するとはどのようなことか、大人がしている行動を見ることで、次第に社会のルールを学んでいきます。親の姿が良いモデルになります。

とはいえ、忙しい日常生活の中で親自身も悩んだ時、困った時は様々な相談支援があります。抱え込まずに相談しましょう。

5 「家庭は子どもの安全基地」～コミュニケーションの時間の確保を～

いざという時に頼れるところ(安全基地)があることで、安心感や信頼感が生まれます。そのためには、短い時間でも子どもと向き合う時間を作りましょう。日頃から子どもと言葉を交わす関係づくりが大切です。

6 「子どもの成長を信じよう」～温かく見守り、そっと支える気持ちを～

たとえ時間はかかっても、子どもを信頼して任せることが、自立への第一歩です。子どもと相談して「子どもに任せる」部分を少しずつ増やしていき、子ども自身の「がんばり」を見逃さず、励ましの言葉をかけながら、温かく見守りましょう。



7 「ICT端末・SNSに関する正しい知識」～安全とルールについて話し合いを～

ゲーム機やスマートフォンなどバーチャルな世界が子どもの周りには、溢れています。SNSに関するトラブルも多発しています。正しく使えば便利な道具ですが、インターネットの世界には差別を助長する誤った情報やその秘匿性や依存性から様々な被害や犯罪に子どもたちが巻き込まれる可能性もあります。子どもの発達や家庭の状況に応じたルールを決めましょう。



8 「直接体験の機会」～自然や人と触れ合える遊びや活動の場を～

親と子が同じ体験を行うことは、互いの考え方や価値観を共有することにつながります。様々な共同体験や自然体験、心を通わす機会をもちましょう。家庭の外でのいろいろな体験が、社会性やコミュニケーション能力を高めます。

9 「好きな本を見つけよう」～家族で本を読む習慣を～

読書は、知識・教養を深めるだけではなく、想像力や表現力、豊かな感性や情操・言葉の獲得など子どもの学び・育ちにつながります。絵本や物語、昔話、言葉遊びの本、科学の本 など興味を示した本から読み始め、子どもと一緒に本の世界を楽しみましょう。



+1(10) ご家庭ならではの約束ごとを

